



阿闍羅

題字 賀山隆夫

発行・編集

青森県南津軽郡大鰐町大字
三ツ目内字水沢出口117-1

社会福祉法人阿闍羅会

電話 0172(48)2426

障害福祉サービス事業所

青森県認証を受けて

社会福祉法人阿闍羅会

理事長 秋元 広光

去る令和二年二月十八日(火)青森県庁において、「青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度」認証授与式が執り行われ、当法人阿闍羅会が認証を授与されました。

私たちが、この度、このような認証を受けることができ、当法人役職員一同、大変光栄に思っております。これまでご支援いただいた利用者・保護者の皆様はじめ、ご指導・ご助言いただいた地域の方々、各関係機関・事業所等の皆様に対し、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



令和元年度第2回 「青森県障害福祉サービス事業所認証評価制度」 認証授与式



令和2年2月18日(火)
青森県庁

※前列左より一番目が秋元理事長

■実施事業

- ワークキャンパス大鰐
 - ・生活介護
 - ・就労継続支援B型
 - ワークショップ大鰐
 - ・就労継続支援B型
 - グループホーム
 - ・グループホームさくら(介護サービス包括型) 居宅数3棟
 - ・グループホームこすもす(外部サービス利用型)
- 【令和2年7月 現在】



羅会役職員一同は、利用者・保護者の皆様にとって安心・安全な支援と環境を提供するため、職員の技術向上や仕事のしやすい職場環境作りが非常に重要であると考え取り組んで参りました。今回の認証授与を契機として、利用者の皆様が持つ力を十二分に発揮できるように支援するため、職員の働きやすい職場環境を整えられるよう、これまで以上に努めてまいります。

しいたけ事業の活性化について

ワークキャンパス大鰐

施設長 佐藤 直幸

日頃より当施設の運営につきまして、多大なるご理解と、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、しいたけハウスの増設を期に昨年度より本格的に「しいたけ事業」を法人の事業と位置づけ、日中、キャンパス・ショップとも協力して作業を行っております。予定では現在6棟あるハウスのうち、秋頃には5棟のハウスの一斉に稼働し、今まになかった収穫量が予想されます。それに対応するため、作業の効率化を図り、それに加え総合的なしいたけ栽培の技術力の向上をキャンパス・ショップとも推進していきたいと思っております。



熱き心と

寄り添う笑顔

ワークショップ大鰐

施設長 白石 安英

ワークショップ大鰐に赴任して、早いもので四年が経ちました。四年間を振り返ってみると、社会福祉法人阿闍羅会にとって、ちょうど変革の時期だったように思います。

ただ事業一本化に伴う利用者の皆さんの実態に合わせたスキルアップと工賃アップを目指した取り組みを支援するものです。当面の生活面の充実としいたけ作業における増産と販売増につなげることが出来るものと期待しています。

また、ショップ全体を見てみると、長ネギの露地栽培やパンの製造販売、縫製作業を中止し、しいたけ作業に集中できる体制作りを図りました。このような中、それぞれの作業に対する利用者の皆さんの熱い想いは、しいたけ作業に引き継がれたのではないかと思います。休まず通所し、その日の作業の内容に応じて準備し取り組む姿は、頼もしさを感じます。キャンパスの皆さんから見ると、まだまだ足りないところもあると思いますが、「熱き心」はくみ取ってほしいところです。



平成二八年・グループホーム「こすもす」認可、平成二九年・グループホーム「さくら」認可・新築、平成三〇年・しいたけハウス(二・三号)増設、平成三一年(令和元年)しいたけ調整加工作業所建設と法人にとってのインフラ整備として生活面と仕事面の充実を図ってきました。このことは、利用者・保護者の皆様の高齢化等への対応と、しい





令和元年度 福祉農園等支援事業報告

ワークキャンパス大鰐 支援課長 笹田 和夫



1 令和元年度（1年次）の成果

- (1) 先進地（岩手県北上市、釜石市）を視察し、栽培方法や選別方法ならびに「粉末しいたけ」の製造方法等を学ぶことができた。また本施設においては利用者による多くの人手を確保することができるので、それを生かして、菌床ハウス内の清潔感を保ちつつ、品質の良いしいたけを栽培できている点も再認識することができた。
- (2) 郷土料理研究団体「津軽あかつきの会」には、「粉末しいたけ」を使った料理の研究開発と「試食会」の調理をお願いした。当方のスタッフが、たびたび活動場所（弘前市石川）を訪問し、会員と意見交換をすることができた。工藤会長をはじめ会員がとても前向きに取り組んでおり、今後も大いに期待できる。
- (3) 令和2年2月19日（水）、8名の地元関係者に依頼し「試食会」を行った。「粉末しいたけ」を使った8種類の料理を提供したが、どの参加者からも肯定的・建設的な意見が多く出され今後の参考になった。また、当日は報道関係各社が取材にきてくれ、各紙面に大きく報道してもらった。大鰐町内外の方から問い合わせもあり手応えを感じている。
- (4) 令和元年12月に、各容器に入れた試供品「粉末しいたけ」を関係各機関の370人へ配布した。またアンケートも依頼し、容器と料理に使った感想を書いてもらった。回収率は66%で、多くの貴重な意見をいただき今後に生かしたいと思う。



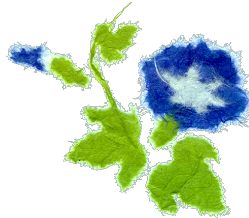
粉末しいたけを使った料理の試食会



試供品「粉末しいたけ」作成場面

2 令和2年度（2年次）の活動計画

- (1) 新商品の開発とレシピづくり
- (2) 新商品発表イベントを開催（鰐カム）
- (3) 「粉末しいたけ」に関わる職員スキルアップ研修



5月2日（土）に、ワークキャンパス大鰐の食堂にて、粘土工作レクを行いました。久しぶりに粘土を購入しましたが、最近の粘土には色がついている事にびっくりしました。そこで、せっかくなので様々な色が入った種類の物を購入しました。当日は各テーブルにセッティングをし、自由に作ってもらいました。参加した利用者の皆さんの大半が幼い頃以来の粘土遊びということもあり、あえてお題はなしにしました。皆さんの様子は・・・

粘土工作

支援員 竹内 友紀

要し、なかなか作る事が出来ない方。
○型を使い、次第にコツを掴んで上手に作る方。
○色を混ぜて綺麗な丸い形を作る方。
○携帯でこれから作るうとする作品の画像をいろいろ調べ始める方。なかなか面白い光景を見せてくれました。

お題を無くして始まった粘土作りも終盤を迎え、利用者も職員も童心に戻って一緒に夢になれる楽しいレクリエーションとなりました。

お題を無くして始まった粘土作りも終盤を迎え、利用者も職員も童心に戻って一緒に夢になれる楽しいレクリエーションとなりました。

お花見写生会

支援員 幸山 稚子



新型コロナウイルス感染症予防のため、さららの名所に行くことを避け、施設敷地内でのお花見を開催する予定でしたが5月2日（土）はあいにくの強風でお花見も中止になりました。お花見を楽しみにしていた十一名の利用者がショック



の食堂で初めての水性サインペン画に挑戦しました。どの絵を見ても個性あふれるすばらしい作品ができあがりした。ショップ内に飾ってますので皆さんご覧になってください。



新「しいたけ調整加工作業所」

ワークキャンパス大鰐 施設長 佐藤 直幸



新「しいたけ調整加工作業所」外観



乾燥作業場



調整作業場

令和2年1月31日、農林水産省の農山漁村振興交付金を利用し、新しい調整加工作業所が完成しました。平成30年度しいたけハウスの拡張に伴い収量が多くなることが予想されたための新築でした。

環境を整え利用者・職員とも作業しやすい場所を確保し、現在よりも更に品質の良いしいたけを提供できるようにしていきたいと思っています。同時に新たな製品の開発を目指し、販売拡大に繋げていきたいと考えております。稼働して半年あまり経ちましたが、非常に作業がはかどり便利よく使用しています。今後も品質の良いしいたけを生産していきたいと思ひます。



新「しいたけ調整加工作業所」 における作業の様子



生しいたけの袋詰め作業



電卓を使って収穫量の計算

広くて新しい

調整棟で頑張っています!

乾燥しいたけを作るために
足をカットする作業



乾燥しいたけの袋詰め作業



乾燥しいたけの袋口を
機械を使って閉じる作業



